

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成27年度第1回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成27年7月23日(木) 18:00~19:30		
場所	小野田保健センター		
出席者	小野田医師会	白澤宏幸	(会長)
	山陽小野田市自治会連合会	平中政明	(副会長)
	厚狭郡医師会	中根比呂志	(委員)
	小野田歯科医師会	田中裕基	(委員)
	厚狭歯科医師会	山崎哲朗	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	福田雅子	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	大池泰弘	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山口宇部農業協同組合	相本まゆみ	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	判野信栄	(委員)
	山口県栄養士会宇部地域専門部会	河村典子	(委員)
	山口県歯科衛生士会小野田支部	藤本文子	(委員)
	山陽小野田市社会福祉協議会	沖野浩	(委員)
	一般公募	塩田賢二	(委員)
	一般公募	原田静江	(委員)
	(出席者数 17人)		
欠席者	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	石川宜信	(委員)
	山陽小野田市老人クラブ連合会	守田節子	(委員)
	(欠席者数 2人)		
オブザーバ	山口県宇部健康福祉センター	原田八重	
事務局	健康福祉部長 河合久雄	健康増進課長	山根愛子
	健康増進課主幹 木本順二	健康増進課課長補佐	河野静恵
	成人保健係主査 石井尚子	健康企画係係長	大海弘美
	母子保健係主任 末永久美	健康企画係主事	村上良平

1. あいさつ	健康福祉部長あいさつ
2. 新委員紹介	
3. 会長選出	委員の互選により会長を白澤委員、副会長に平中委員を選出した。
4. 議 事	(1) 平成27年度山陽小野田市保健事業概要(以下「保健事業概要」という。)について
事 務 局	資料1(保健事業概要)の説明
議 長	意見、質問等ないか。
委 員	保健事業概要7頁の乳幼児健康診査実施状況において1か月児、3か月児などといった区分ごとの有所見率が掲載されているが、本市の数値は全国もしくは県内他の市町と比べてどうか。
事 務 局	今、手元に資料がないため、後日回答をする。
委 員	保健事業概要11頁の(2)その他の健康相談の実施状況におけるその他の相談者延数が減少しているのは何か理由があるのか。
事 務 局	平成24年度までは、2名体制で健康教育と併せて健康相談を実施していた。併せて実施すると、健康相談に時間がかかるため健康教育にかける時間が減少してしまった。血圧計を所持している家庭が増えたことやかかりつけ医にて定期的な健康相談を受けている方が増えていることを鑑みて、健康教育を中心に行うよう切り替えたため相談者延数が減少という形になった。ただし、現在も健康教育終了後に希望者に対して健康相談を行うようにしている。
委 員	昨年がん検診のパンフレットの改正は実施されたのか。
事 務 局	実施した。子宮がんと乳がんのクーポン事業にて行い、受診率も上昇した。
委 員	保健事業概要12頁の医師の講演会について、平成26年度は回数が2回となっているが、医師会の方ではもう少し回数を行っているはずだが。
事 務 局	12頁に掲載しているのは、市から医師会に依頼したものだけを掲載している。医師会主催のものについては掲載していない。
委 員	保健事業概要16頁の平成26年度がん検診精密検査受診結果における要精査検査率について、本市の数値は他の市町と比べてどうか。
事 務 局	他の市町と比べて特別に率が高いということはない。がんには各々特徴があるため、すべてのがんの平均値を出すわけにはいかない。各々のがんによって、他の市町より少し高い、低いはある。
委 員	保健事業概要22頁の健康づくり計画推進事業における予算はどのくらいあるのか。
事 務 局	健康フェスタにて10万円、各部会の活動費として約9万円の予算を確保している。
委 員	会計報告は行っているのか。
事 務 局	総会にて会計報告は行っている。
委 員	保健事業概要5頁の新規の事業として幼児食にむけてのステップア

事務局 委員	<p>ップ教室が取り組まれている。6月18日(木)に第1回目が行われているが、参加人数はどのくらいいたのか。</p> <p>参加人数は約20名であった。</p> <p>最近男性の独居が増えていると感じる。独居の男性は料理ができない、料理に携わることがないという方が多い。そういった男性が病気にかかるると治療食の実践もなかなか難しい。治療食の実践の前段階である男性の料理教室などを取り入れるよう今後考慮してもらいたい。</p> <p>各校区の公民館にて男性の料理教室は毎月行われている。しかし、そういった男性の意識を変えていかないとなかなか参加数は増えていかない。家に引きこもっている男性をいかに参加していただくかをまず考えていかないといけないと思う。市からも男性の料理教室のPRをして、参加を促してほしいと考えている。</p>
事務局 議長 委員	<p>(2) 歯科保健の現状と取り組みについて</p> <p>資料2の説明</p> <p>意見、質問等ないか。</p> <p>2. 平成26年度山口県子どもの歯科保健統計における(1)う歯のない人(永久歯)の県内市町比較について、う歯のない小中学生の率が高い市町と本市とのフッ素の実施率の違いを確認することができるか。実際、フッ素を塗布することで、う歯の罹患率の改善できているというデータもある。</p>
事務局 委員	<p>確認することはできる。</p> <p>確認することができるのであれば、データなどで分析できると思う。</p> <p>他の歯科医師会では、学校でのフッ化物洗口を行っているところも多い。予算が厳しいかもしれないが、データなどを用いて、実施できるよう進めて欲しい。</p>
事務局 委員	<p>う歯のない中学生の率が高い2つの市町について調べたところ、一方の市町では、フッ化物応用を市町事業として行っているが、もう一方の市町では行っていないようだ。</p> <p>フッ素以外の方法で、う歯の罹患率の改善策はないか。</p> <p>学校の保健委員会の中では、親の意識を高めないといけないという意見が挙がっている。こちら側の立場としては、冊子を渡すなどして意識改善に努めるしかないと思う。</p>
事務局 委員	<p>親の意識が低い家庭における子どもは歯が悪いことが多く、親の歯も悪いことが多い。親の意識を高めるのはなかなか難しく、簡単には答えが出ないものである。例えば、学校単位でう歯がある子どもについて、治ると終了証明書を出すなどして、もう少し管理徹底をする方向にもっていかないと難しいのが現状だと思う。</p>
事務局 委員	<p>意識を高めるために、今年度から広報に写真付きで「歯っぴいキッズ」として掲載をし始めた。</p> <p>乳幼児からの習慣が大事になってくるのかなと思う。私には孫がいる</p>

